

琉璃玉の耳輪

津原泰水著

原案は尾崎翠。昭和の初め、映画用脚本として書かれた。紆余曲折を経て、津原が小説化。大胆な改稿ののち、ついに単行本に。女探偵・岡田明子の事件簿。面白い。(河出書房新社・1700円)

経済一般について書いてもらった」と担当編集者の児玉真悠子氏。本作りにあたっては書店の現場を知る営業部の意見を採り入れ、表紙は人目を引く鮮やかな水色にした。そして「ターミナル駅の書店はほとんどすべて回った」という木暮氏の努力。タイトルを刷った名刺を持参してPRしたり、本を置いてくれた書店員さんにお礼をいったり。木暮氏は「まず自分が売らなければ、誰も売ってはくれない」と当然のように話す。

木暮氏は出版社の経営に携わったこともあり、「業界の実情がよくわかる」。それだけに書店訪

著者自ら書店に売り込み

問にしても、夕方の忙しい時間帯は避けて午前中にするなど配慮も欠かさなかった。

今春には啓文堂書店チエーンのビジネス書ダイビーで1位に選出。さらにコンビニエンスストアのファミリーマートへの配本など多様な展開にもつながった。

本の著者略歴の部分には木暮氏のメールアドレスを記載し、読者とのコミュニケーションも図った。発売当初は一日に何通ものメールが届き、基本的にすべてに返信したという。まさに「著者の鑑」(児玉氏)のような姿勢が生んだベストセラーといえそうだ。

ベストセラー

新書

- | | | |
|---------------|------------------------|-------------------|
| ①東大卒でも赤字社員 | 中卒でも黒字社員 | 香川晋平著 (経済界) |
| ②街場のメディア論 | | 内田樹著 (光文社) |
| ③デフレの正体 | | 藻谷浩介著 (角川書店) |
| ④梅棹忠夫 語る | 梅棹忠夫・小山修三著 (日本経済新聞出版社) | |
| ⑤テレビの大罪 | | 和田秀樹著 (新潮社) |
| ⑥伝える力 | | 池上彰著 (PHP研究所) |
| ⑦残念な人の思考法 | | 山崎将志著 (日本経済新聞出版社) |
| ⑧偶然とは何か | | 竹内啓著 (岩波書店) |
| ⑨宇宙は何でできているのか | | 村山斉著 (幻冬舎) |
| ⑩大阪維新 | | 上山信一著 (角川書店) |

(9月27日から10月3日まで、大阪・ジュンク堂書店大阪本店)

雇用を安定化したクリーニング店の話。あるいは従業員が多能工化をすすめる、シフト管理をチエーンの旅館全体で行い、効率化を進め、従業員の給与水準を引き上げた箱根の旅館。「ぐっすりと眠れる」ことを宿泊の中心におき、その周辺要素として

変わりつつある

「現場で働く従業員の経験や勘、スキルに大きく依存しているところが実に多い」と語るが、それは製造業も同じである。大切なのはそれをマニュアル化すること、可能な限り機械化することだろう。進化するサービス業の現状報告。

(中沢孝夫)